

蛇の誘惑：The Temptation of the serpent

さて主なる神が造られた野の生き物のうちで、へびが最も狡猾であった。へびは女に言った、「園にあるどの木からも取って食べるなど、神は本当に言われたのですか」。女はへびに言った、「わたしたちは園の木の实を食べることは許されています。ただ園の中央にある木の实については、これを取って食べるな、これに触れるな、死んではいけないからと、神は言われました」。へびは女に言った、「あなたがたは決して死ぬことはありません。それを食べると、あなたがたの目が開け、神のように善悪を知る者となることを、神は知っているのです」。女がその木を見ると、それは食べるに良く、目には美しく、賢くなりそうで好ましく思われた。それで、その実を取って食べ、また共にいた夫にも与えたので、彼も食べた。すると、ふたりの目が開け、自分たちが裸であることを知り、いちじくの葉をつづり合わせて、腰に巻いた。

彼らは、そよ風の吹くころ、園の中に主なる神の歩まれる音を聞いた。そこで、人とその妻とは主なる神の顔を避けて、園の木の間に身を隠した。主なる神は人に呼びかけて言われた、「あなたはどこにいるのか」。彼は答えた、「園の中であなたの歩まれる音を聞き、わたしは裸だったので、恐れて身を隠したのです」。神は言われた、「あなたが裸であることを、だれが知らせたのか。食べるなど、命じておいた木から、あなたは取って食べたのか」。人は答えた、「わたしと一緒にしてくださったあの女が、木から取ってくれたので、わたしは食べたのです」。そこで主なる神は女に言われた、「あなたは、なんということをしたのか」。女は答えた、「へびがわたしをだましたのです。それでわたしは食べました」。

コメント：へびは悪魔の化身と言われます。悪魔は蛇の姿をして女をだましました。

誘惑の言葉は、まず、「神は本当に言われたのですか？」「神はうそを言っています。食べても死にません。」「かえって、神のように善悪を知るようになります。」そのように、神の言葉を否定して、甘い言葉で誘惑しました。人は誘惑に弱いものです。今なお、人は詐欺に掛かって大金を失っている報道を目にします。私たちは「彼女を愚かな女だ。」と言うことはできません。同じ失敗をする者です。そして、自分の失敗を誰か他の人のせいにするところも同じです。この聖書の箇所から私たちは何を学ぶことができるでしょうか？

アダムとエバの失敗は、今現在、生きている私たちも同じように失敗することを示しています。聖書は、この失敗を罪と言っています。ローマ 5 章 12・14 節【こういうわけで、ちょうど一人の人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして、すべての人が罪を犯したので、死がすべての人に広がった——けれども死は、アダムからモーセまでの間も、アダムの違反と同じようには罪を犯さなかった人々さえも、支配しました。】この罪による死が世界を支配しています。また人の心についても書かれています。詩編 53 章 1～3 節【愚か者は心の中で「神はいない」と言う。彼らは腐っている。忌まわしい不正を行っている。善を行う者はいない。神は天から人の子らを見下ろされた。悟る者 神を求める者がいるかどうかと。彼らはことごとく背き去り だれもかれも無用の者となった。善を行う者はいない。だれ一人いない。】

アダムとエバによって罪が世に入ってきて絶望と見られますが、この問題をイエス・キリストが解決してくださいました。